

住民意識調査における町政の施策評価

1. 評価の全体像

- ・ 現状評価が高い施策では、「1 移住者の定着」「13 幼少期の保育体制」「16 健康づくり環境」「33 ごみの減量・資源化」「36 上下水道整備」「38 富士見らしい景観の保持」「40 消防団活動」「43 公共施設の適切な維持・管理」などがあがっている（平均点 2.7 以上）。
- ・ 今後の重要性が高い施策としては、施策分野として「子育て・教育」「環境・都市基盤」「行財政」に施策に多い傾向がみられる。

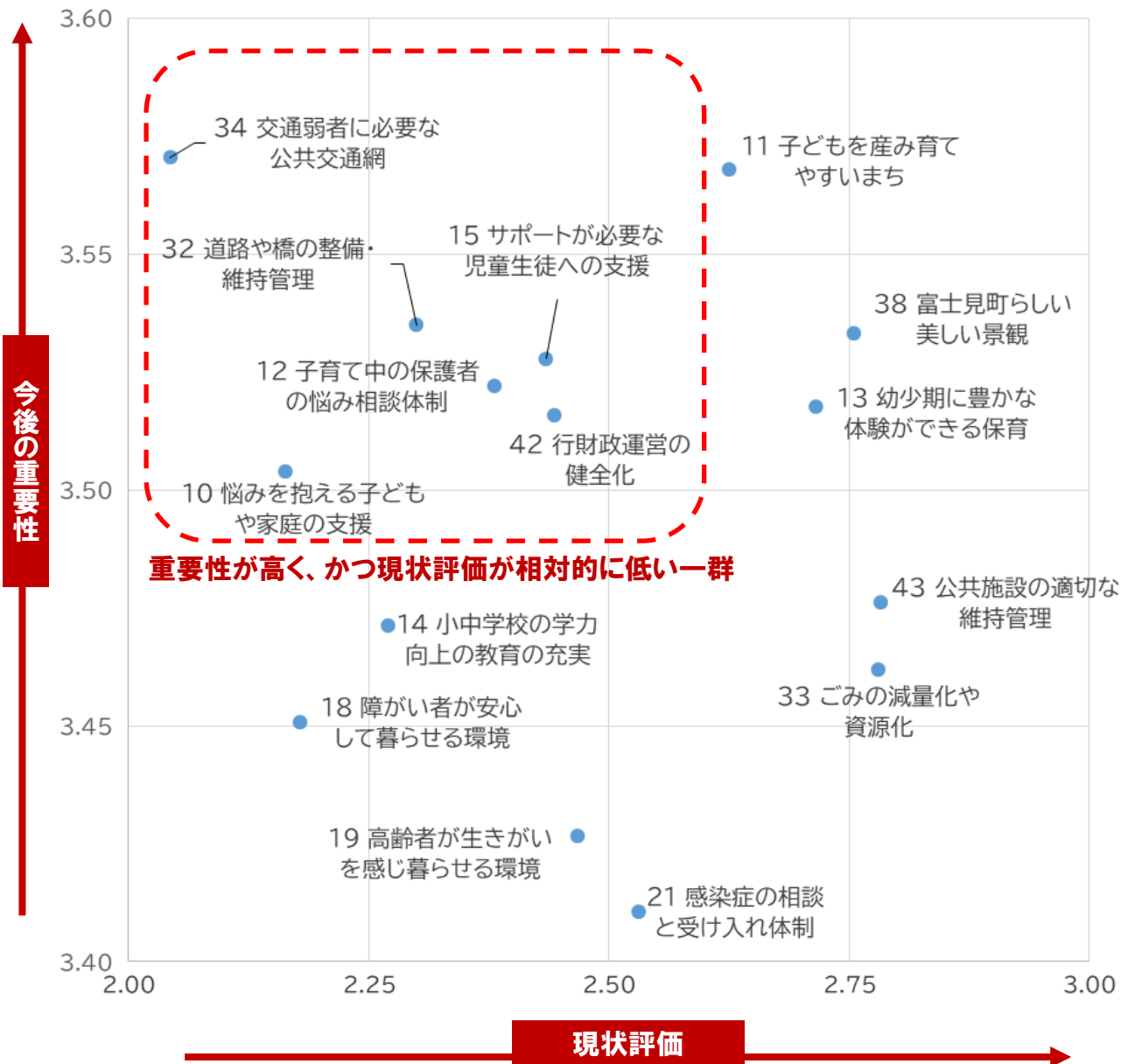
図表 1 町政についての「現状」および「今後進めていく重要性」についての評価

分野	具体的な状況	現状の評価			今後進めていく重要性	
		H29実績	R4	わからない割合	R4	わからない割合
人口	1 移住者が地域に定着している	2.56	2.81	14.8	3.24	7.5
	2 町出身者が地元で定着し、外に出て帰ってくる地域である		2.01	14.8	3.25	9.2
	3 富士見町の知名度や認知度が高くなっている		2.38	9.6	3.24	6.5
産業	4 農業が盛んになってきている	2.01	2.10	12.9	3.16	7.5
	5 里山など身近な森林の整備が実施されている		2.04	12.8	3.30	7.3
	6 知人や友人にすすめたい観光地が町内にある	2.46	2.50	4.2	3.25	4.7
	7 製造業が盛んな地域である	1.92	2.03	10.8	3.01	10.3
	8 町内の商店街に賑わいが生まれつつある	1.51	1.95	3.9	3.24	5.2
	9 就業しやすい体制が整っている	1.61	1.68	18.5	3.36	7.6
子育て教育	10 悩みを抱える子どもや家庭を支援する環境が整っている	2.10	2.16	44.9	3.50	19.2
	11 子どもを産み育てやすい地域である	2.59	2.62	21.0	3.57	10.8
	12 子育て中の保護者が悩みを相談できる体制が整っている		2.38	41.5	3.52	15.8
	13 幼少期に豊かな体験ができる保育体制が整っている	2.70	2.71	29.0	3.52	13.0
	14 小中学校において学力を向上する教育が充実している	2.27	2.27	44.5	3.47	17.6
	15 サポートが必要な児童生徒への支援体制が充実している	2.44	2.43	49.6	3.53	19.5
健康福祉	16 健康づくりに取り組みやすい環境が整っている	2.70	2.72	14.9	3.40	6.3
	17 ご近所において、お互いに支え合える人間関係を築けている	2.59	2.59	6.4	3.20	6.5
	18 障がい者が安心して生活していける環境が整っている	2.17	2.18	31.5	3.45	11.2
	19 高齢者が生きがいを感じ、暮らしていける環境が整っている	2.44	2.47	20.2	3.43	6.3
	20 暮らしの困りごとや気がかりなことを相談できる体制が整っている		2.26	26.4	3.39	9.3
	21 感染症の相談と感染時の受け入れ体制が整っている		2.53	29.3	3.41	11.4
住民活動生涯学習	22 町政に関する情報を入手する環境が整っている		2.44	18.3	3.36	8.8
	23 区・集落組合が機能し、自立的な地域づくりが行われている	2.68	2.62	18.0	3.18	11.8
	24 区・集落組合等のコミュニティに参加しやすい地域である	2.52	2.48	12.8	3.14	10.2
	25 住民・教育機関・企業等が連携し、自然保護に取り組んでいる	2.26	2.26	30.4	3.32	11.9
	26 姉妹町・友好都市との交流が盛んにおこなわれている	2.47	2.29	34.2	3.07	16.6
	27 様々な学びや趣味を気軽に行える施設が整っている		2.21	16.3	3.30	8.1
	28 互いの個性や立場を認め合える地域である		2.15	26.2	3.23	14.2
	29 公民館などで学びの機会が提供され、多くの人に利用されている	2.44	2.35	20.5	3.21	10.4
	30 スポーツやレクリエーションを楽しめる環境が整っている	2.48	2.47	15.2	3.27	8.6
	31 地域の伝統や文化財・文化遺産の保存・活用が行われている	2.54	2.65	24.2	3.30	12.5
環境都市基盤	32 道路や橋が整備され、適切に維持管理されている	2.47	2.30	5.6	3.54	2.7
	33 ごみの減量化や資源化が進んでいる	2.87	2.78	11.9	3.46	5.0
	34 交通弱者に必要な公共交通網が整備されている	2.04	2.04	11.2	3.57	5.8
	35 地域の特性を活かした適切な土地利用がされている	1.92	1.98	27.5	3.39	12.9
	36 上下水道の整備が行き届いている	3.06	3.04	10.8	3.40	6.7
	37 地域における地球温暖化防止の取組みが進んでいる		1.95	33.6	3.39	13.5
	38 富士見町らしい、美しい景観が保たれている		2.76	8.7	3.53	5.0
	安心安全	39 防災訓練が十分に行われている	2.67	2.65	14.8	3.36
40 地域の消防団による活動が活発におこなわれている		3.19	3.03	21.8	3.17	12.7
41 地域による防犯対策が行われている		2.42	2.30	24.1	3.38	9.7
行財政	42 行財政運営の健全化が図られている	2.46	2.44	44.6	3.52	17.6
	43 公共施設が適切に維持・管理されている	2.74	2.78	21.8	3.48	10.8
他	44 ICTの導入によって暮らしや仕事の利便性が高まっている		2.14	42.2	3.33	26.2

町政の主要施策を 44 に分類し、「現在の状況の評価」と「今後、取り組みをさらに進めるべきか（重要性評価）」についてそれぞれ「そう思う」= 4、「ややそう思う」= 3、「あまりそう思わない」= 2、「そう思わない」= 1としてポイント化し平均値を算出した。また、評価することができず「わからない」を選んだ回答の割合を、それぞれ青いグラフで示した。

- 重要性が高く、かつ現状評価が比較的低い施策（今後より力を入れることが検討される施策）としては、「10 悩みを抱える子ども・家庭の支援」「12 子育て中の保護者の悩み相談体制」「15 サポートが必要な児童生徒への支援」「32 道路や橋の維持管理」「34 公共交通網の整備」「42 行財政運営の健全化」などがあげられる。

図表 2 「今後の重要性」評価の高い施策群における「現状」の評価



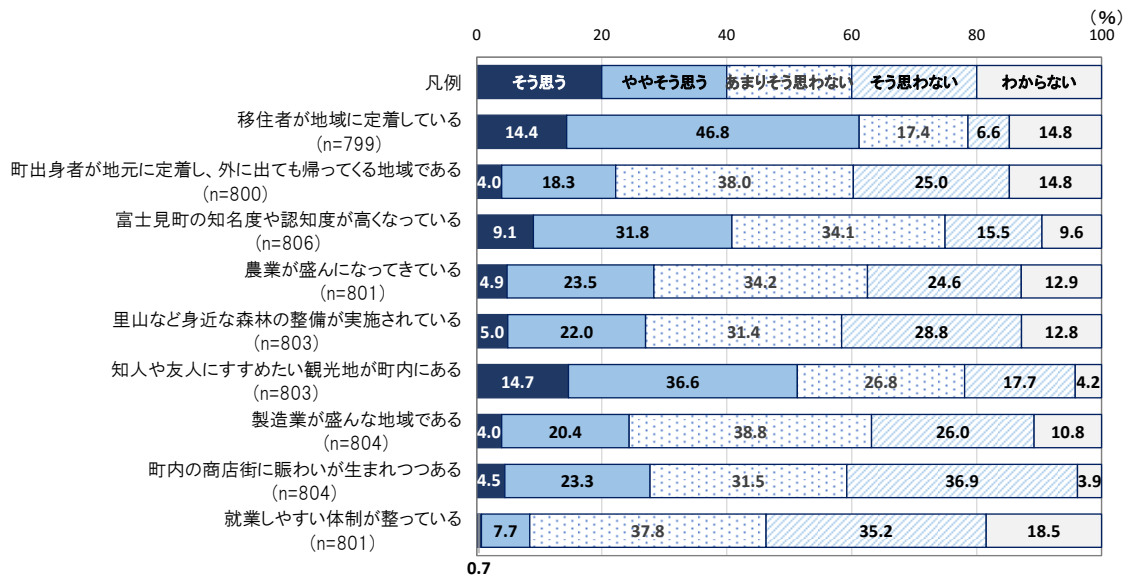
今後進めていく重要性上位 15 について、現状評価と重要性の平均ポイントを 2 軸で配置した

2. 各施策分野ごとの詳細評価

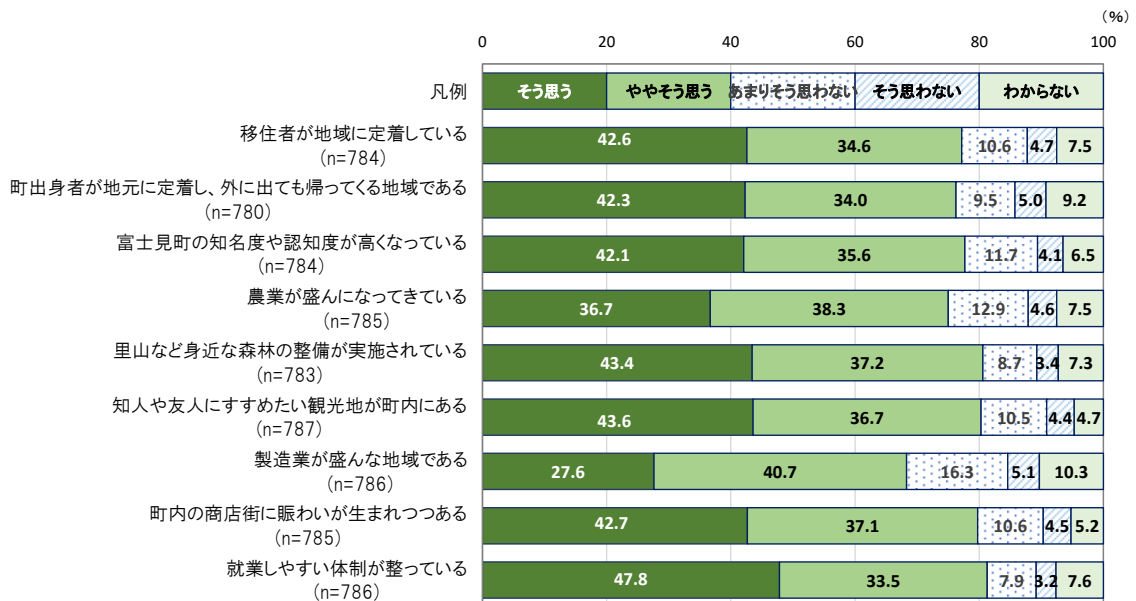
(1) 人口・産業

- ・ 現状評価では、「移住者の定着」「すすめたい観光地がある」がそれぞれ「そう思う」「ややそう思う」が約半数となっており比較的评价が高い。一方で「就業しやすい体制」は評価が低く、「そう思わない」「あまりそう思わない」の回答が73.0%を占めている。
- ・ 重要性では、「そう思う」割合がもっとも高いのは「就業しやすい体制」で47.8%となっている。これに次ぐのは「すすめたい観光地がある」(43.6%)、「森林の整備」(43.4%) などとなっている。

図表 3 【現状評価】 人口・産業



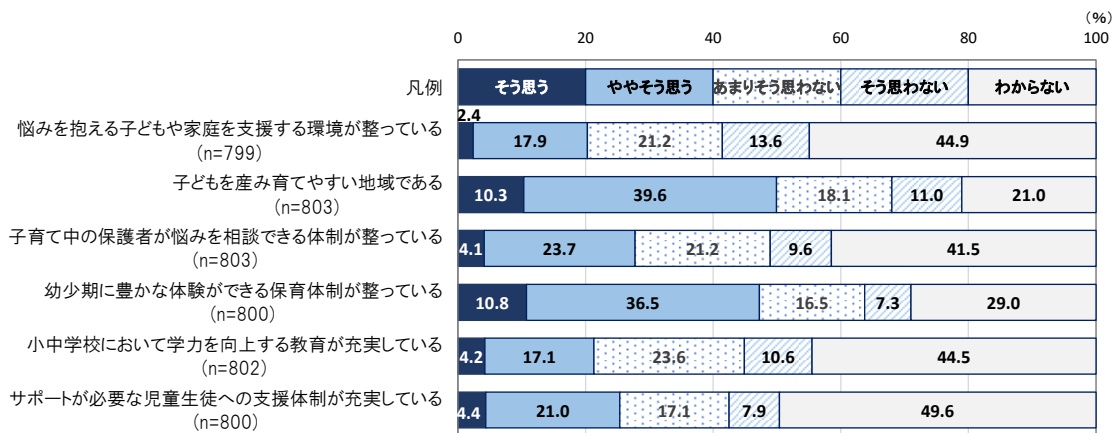
図表 4 【重要度】 人口・産業



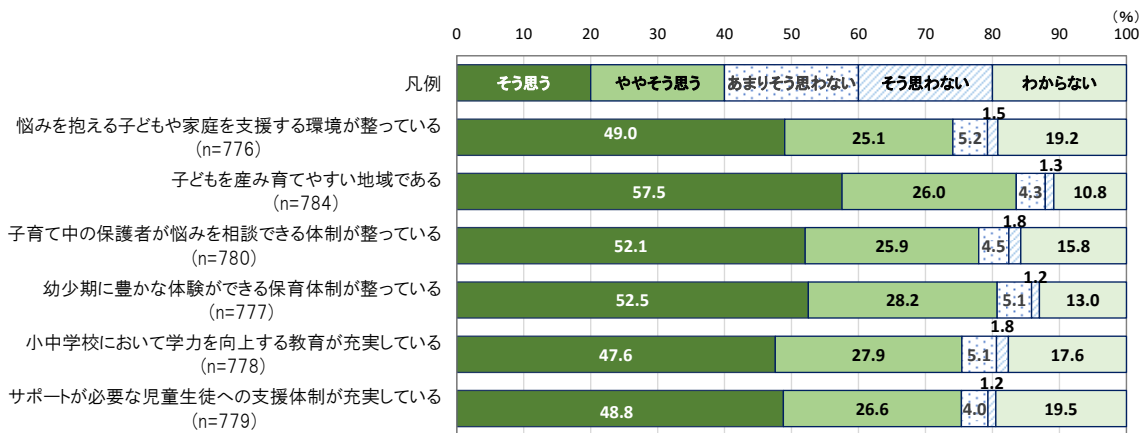
(2) 子育て・教育

- 子育て・教育分野の現状評価は「わからない」とする回答が多い。そのなかで「子どもを産み育てやすい」「幼少期の保育体制」については「そう思う」「ややそう思う」の割合が半数近くを占めており、比較的評価が高い。一方で、「悩みを抱える子どもや家庭の支援」「保護者が悩みを相談できる体制」「小牛学校の学力向上の教育」は「そう思う」「ややそう思う」の割合が30%を下回っており、評価が低い。
- 重要性では、「そう思う」の割合がもっとも高いのは「子どもを産み育てやすい」(57.5%)で、次いで「幼少期の保育体制」(52.5%)「保護者が悩みを相談できる」(52.1%)となっている。

図表 5 【現状評価】子育て・教育



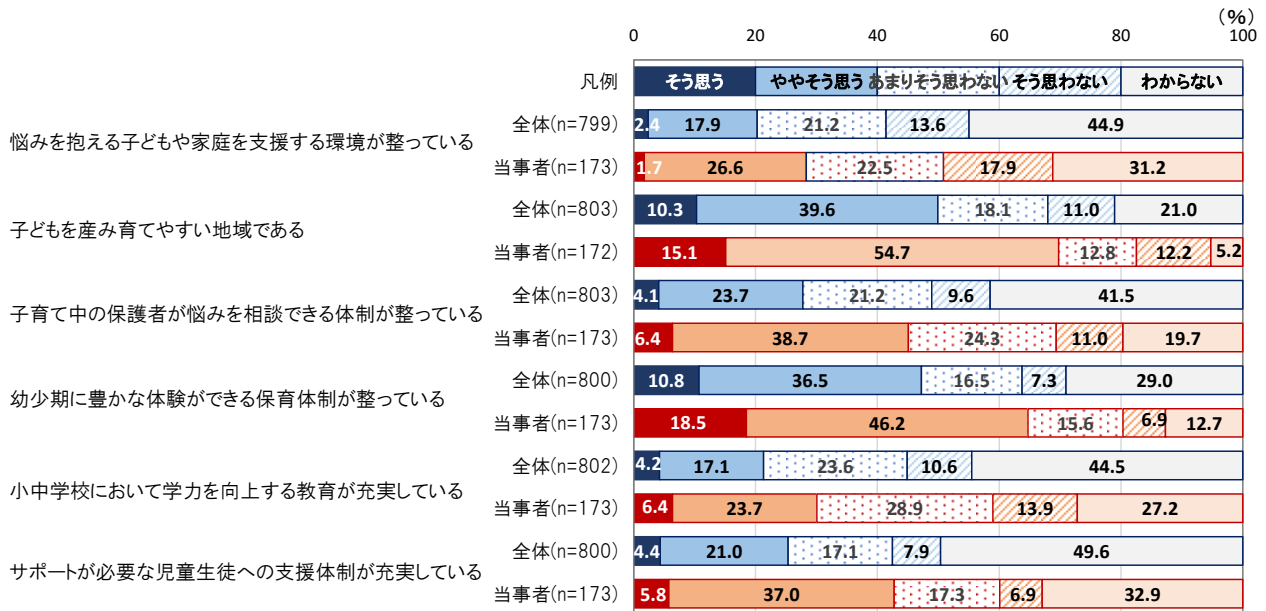
図表 6 【重要度】子育て・教育



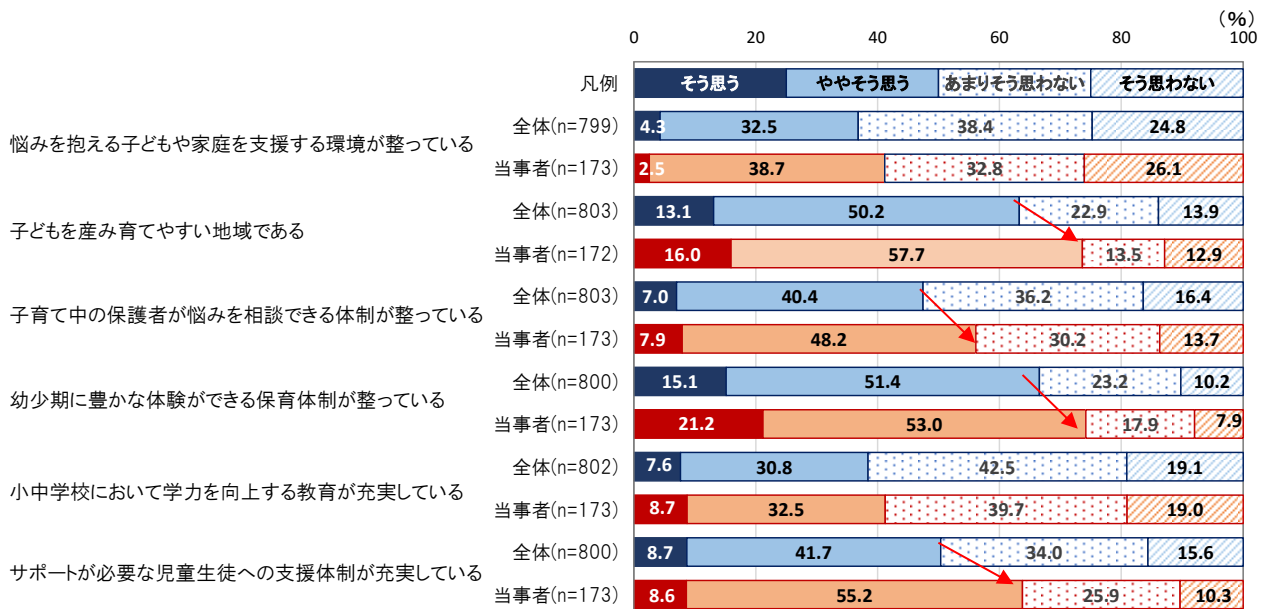
【参考】子育て・教育施策についての当事者（子どもを抱える住民）にとっての評価

- ・ 家族に中学生以下の子どもがいる回答者だけで集計を行うと、現状評価・重要性においてそれぞれ「わからない」の割合が下がり、その分「そう思う」「ややそう思う」の肯定評価の割合が高くなる傾向にある。

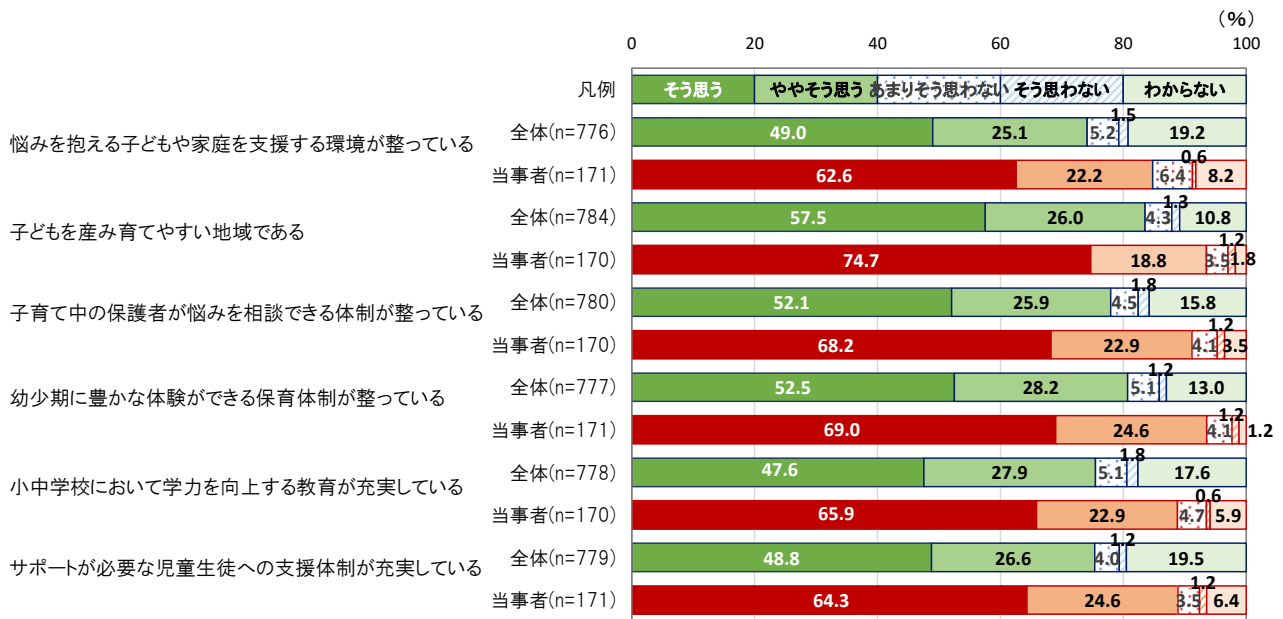
図表 7 「現状評価」子育て・教育（当事者回答比較）



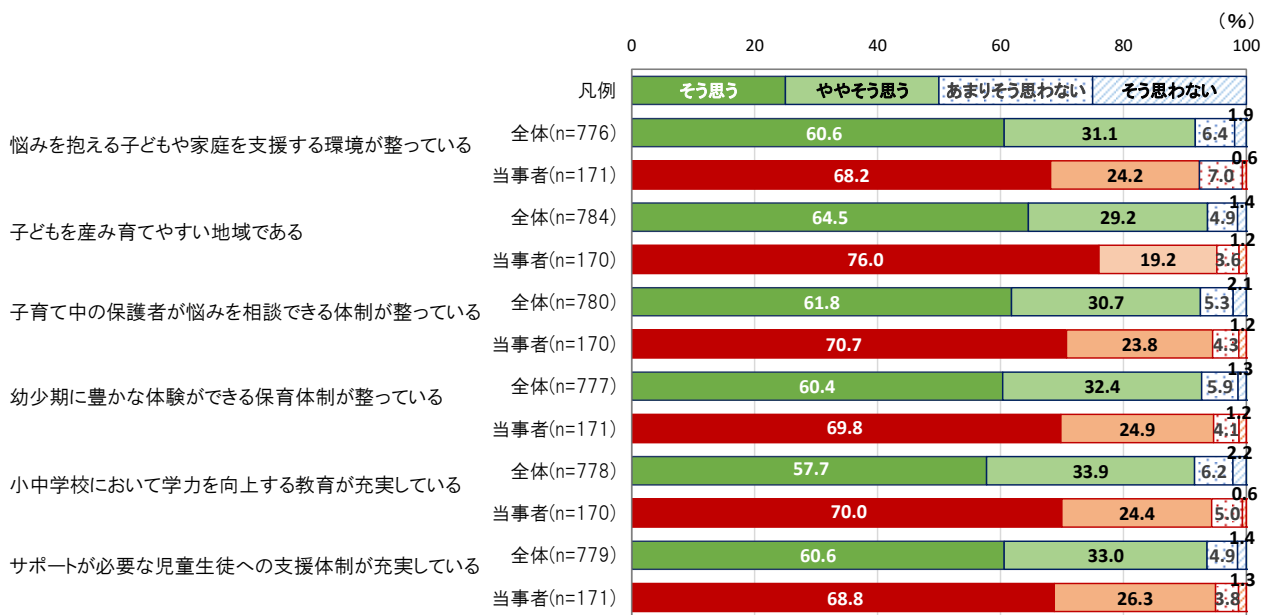
図表 8 「現状評価」子育て・教育（当事者回答比較）「わからない」を除外した割合



図表 9 【重要度】子育て・教育（当事者回答比較）



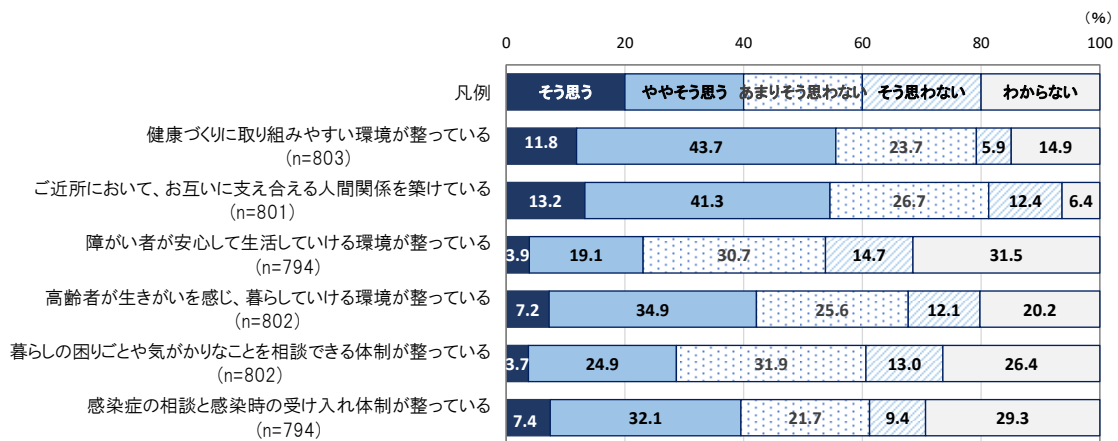
図表 10 【重要度】子育て・教育（当事者回答比較）「わからない」を除外した割合



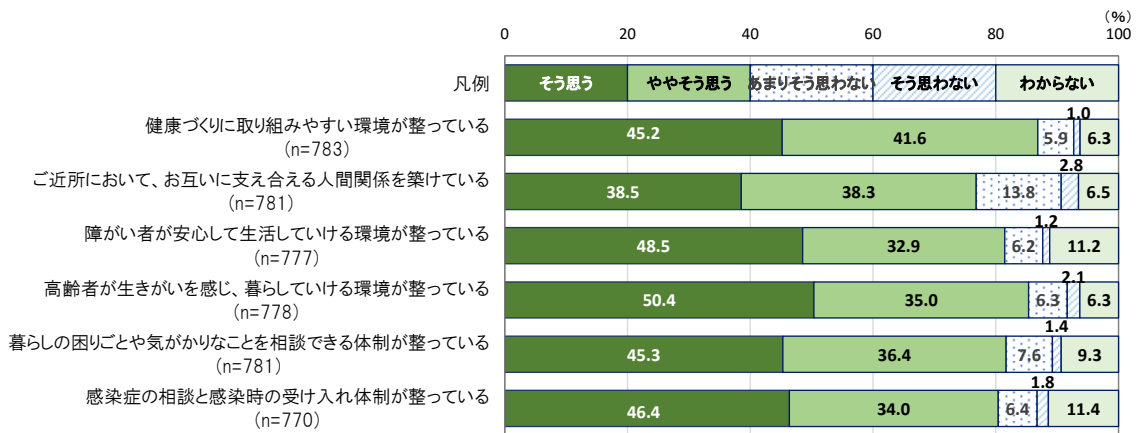
(3) 健康・福祉

- 現状評価では、「健康づくりに取り組みやすい環境」「ご近所で支え合える人間関係」がそれぞれ「そう思う」「ややそう思う」の割合が半数を超えており、比較的评价が高い。一方で「障がい者が安心して生活できる」「暮らしの困りごとを相談できる」では「そう思う」「ややそう思う」の割合が30%を下回っており、評価が低い。
- 重要性では、「高齢者が生きがいを感じ暮らしていける」が「そう思う」の割合が最も高い(50.4%)。また「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計でみると、「健康づくりに取り組みやすい環境」が最も評価が高くなっている(86.8%)。

図表 11 【現状評価】健康・福祉



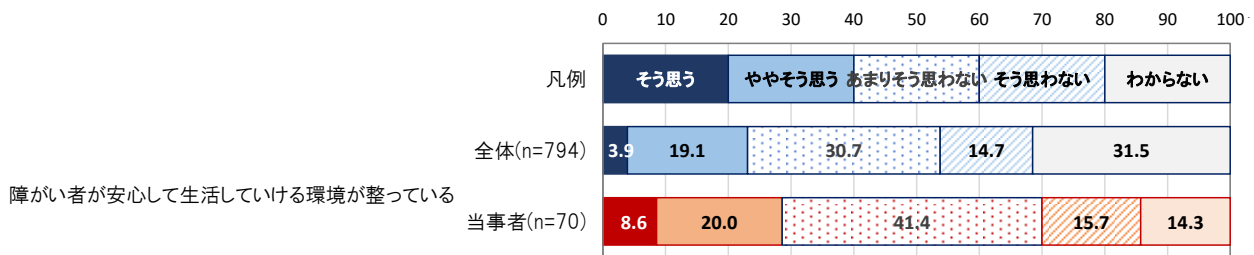
図表 12 【重要度】健康・福祉



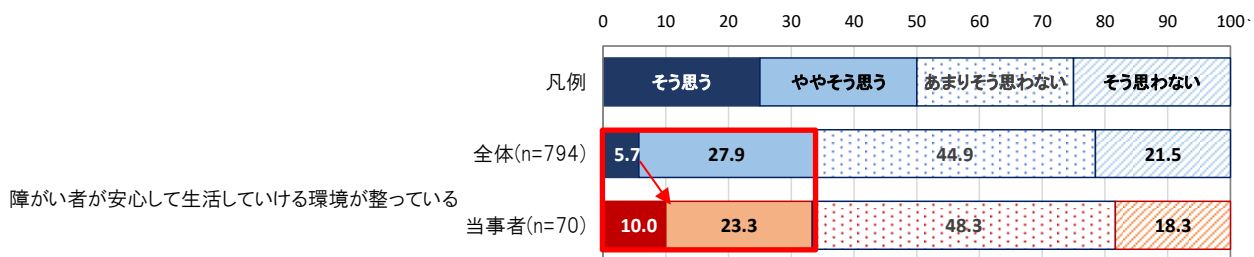
【参考】「障がい者が安心して生活できる」についての当事者にとっての評価

- ・ 本人を含めて家族に障がい者手帳保持者がいる回答者だけで集計を行うと、現状評価・重要性のそれぞれで「わからない」の割合が下がり、その分「そう思う」「ややそう思う」の肯定評価と、「そう思わない」「あまりそう思わない」の否定評価の割合がそれぞれ高くなる。
- ・ 「わからない」を除外した割合で現状評価を比較すると、当事者回答で「そう思う」がやや高くなるものの、「そう思う・ややそう思う」を合わせた割合は全体とほぼ同じである。
- ・ 「わからない」を除外した割合で重要性を比較すると、「そう思う・ややそう思う」を合わせた割合は当事者回答の方が全体より低くなっている。

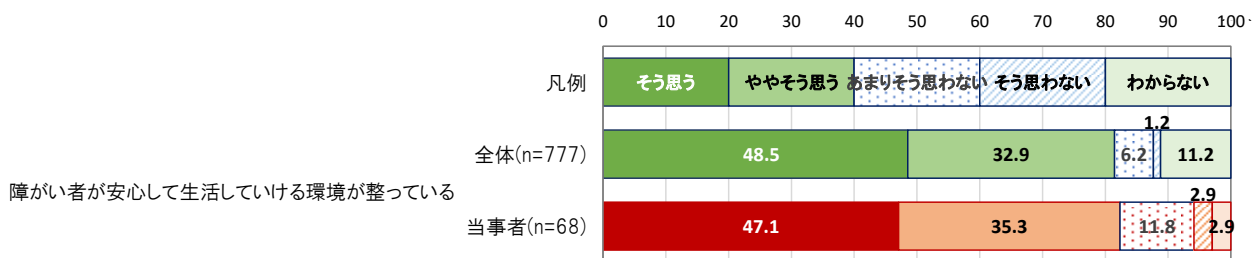
図表 13 【現状評価】健康・福祉（当事者回答比較）



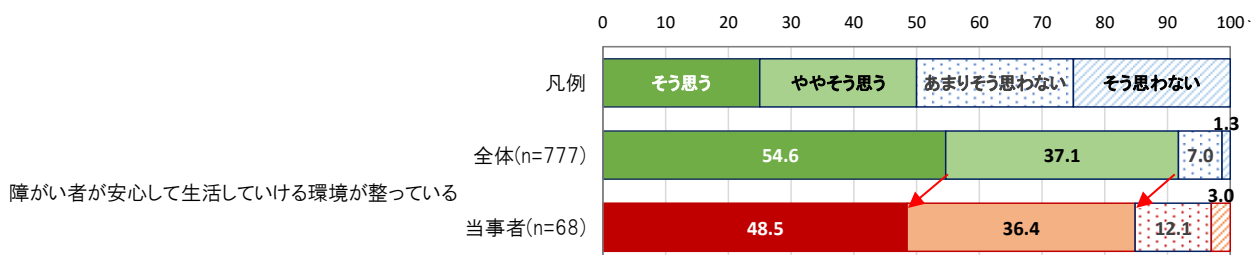
図表 14 【現状評価】健康・福祉（当事者回答比較）「わからない」を除外した割合



図表 15 【重要度】健康・福祉（当事者回答比較）



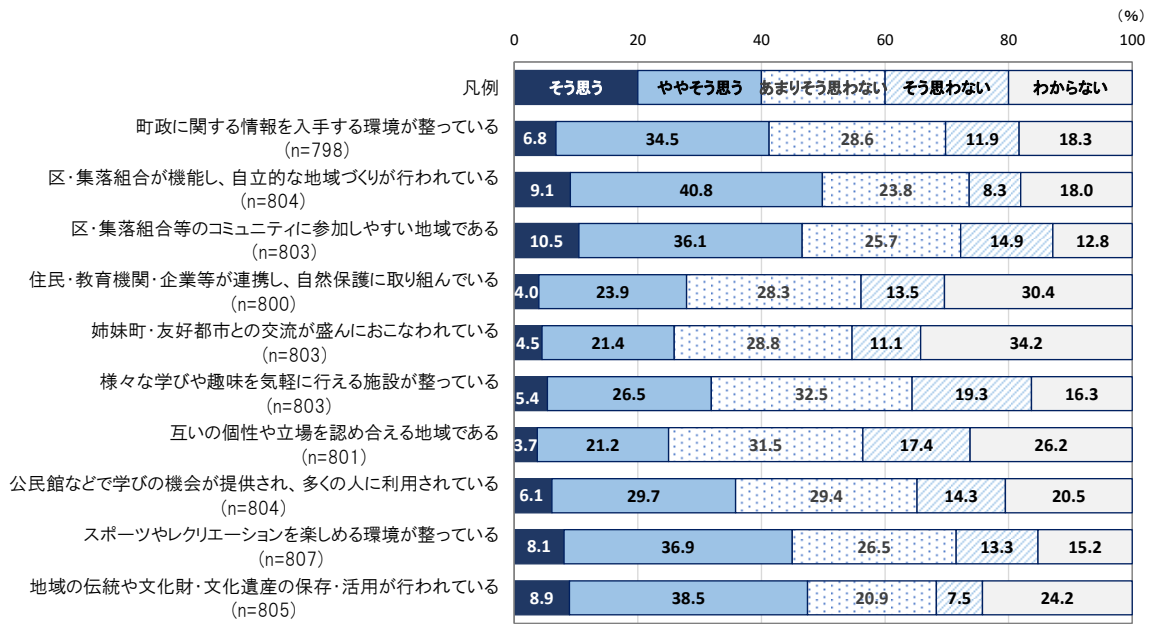
図表 16 【重要度】健康・福祉（当事者回答比較）「わからない」を除外した割合



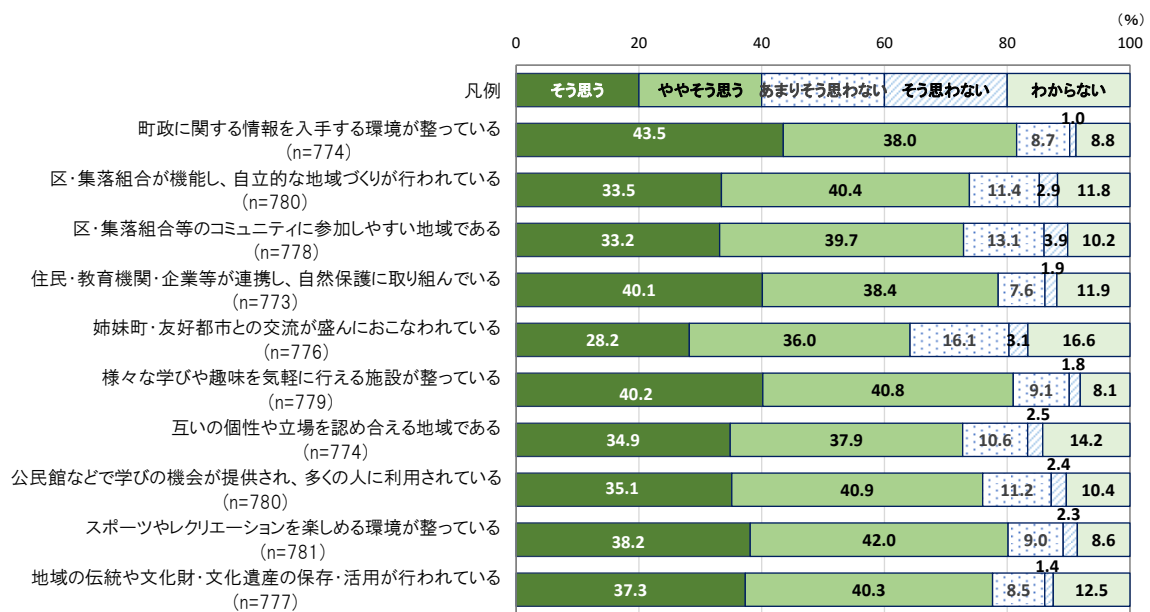
(4) 住民活動・生涯学習

- 現状評価では、「区・集落組合が機能している」「区・集落組合等のコミュニティに参加しやすい」「地域の伝統や文化の保存・活用」「スポーツやレクリエーションが楽しめる」等が比較的评价が高くなっている。一方で最も評価が低いのは「互いの個性や立場を認め合える」で、「そう思う」「ややそう思う」の割合が24.9%に留まっている。
- 重要性では、「町政に関する情報を入手する環境」「様々な学びや趣味が行える施設整備」「住民・教育機関・企業等の自然保護活動」が「そう思う」の割合が40%を超えており、比較的评价が高くなっている（それぞれ43.5%、40.2%、40.1%）。

図表 17 【現状評価】住民活動・生涯学習



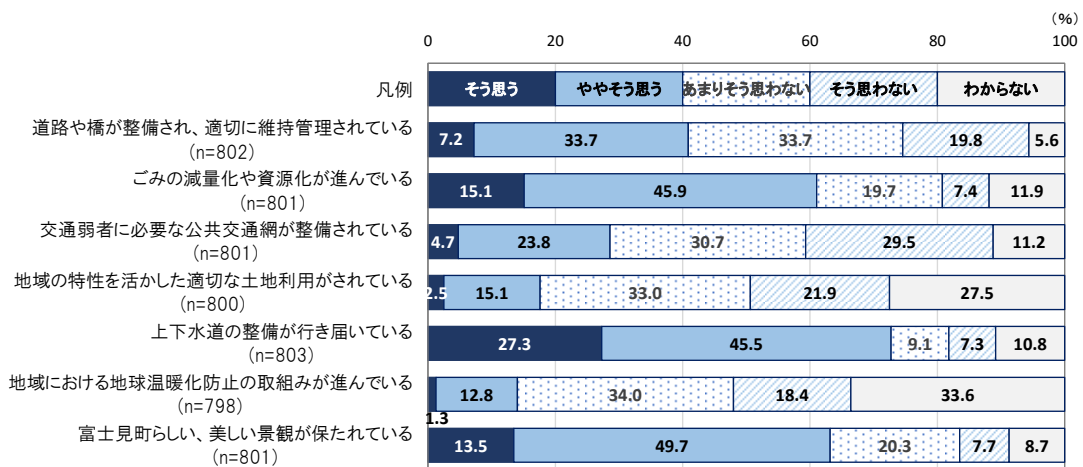
図表 18 【重要度】住民活動・生涯学習



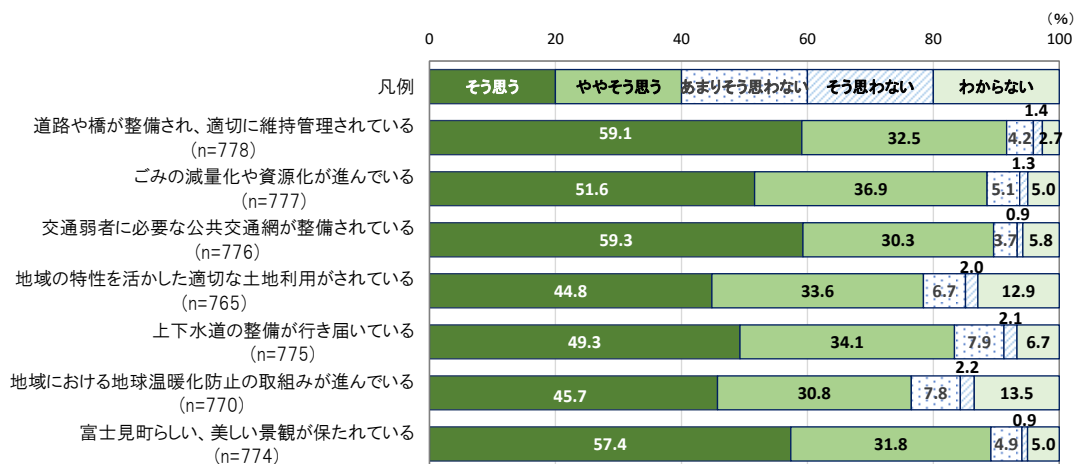
(5) 環境・都市基盤

- 現状評価では、「上下水道の整備」「富士見らしい美しい景観の保持」「ごみの減量化・資源化」が「そう思う」「ややそう思う」の割合が過半数を占め、評価が高い。一方で「温暖化防止の取組」「適切な土地利用」「交通弱者に必要な公共交通網の整備」は「そう思う」「ややそう思う」の割合が30%を下回り評価が低い。また「温暖化防止の取組」「適切な土地利用」については「わからない」の割合が比較的高い。
- 重要性では、「そう思う」の割合が最も高いのは「交通弱者に必要な公共交通網の整備」(59.3%)で、次いで「道路や橋の維持管理」(59.1%)「富士見らしい美しい景観の保持」(57.4%)が高くなっている。

図表 19 【現状評価】環境・都市基盤



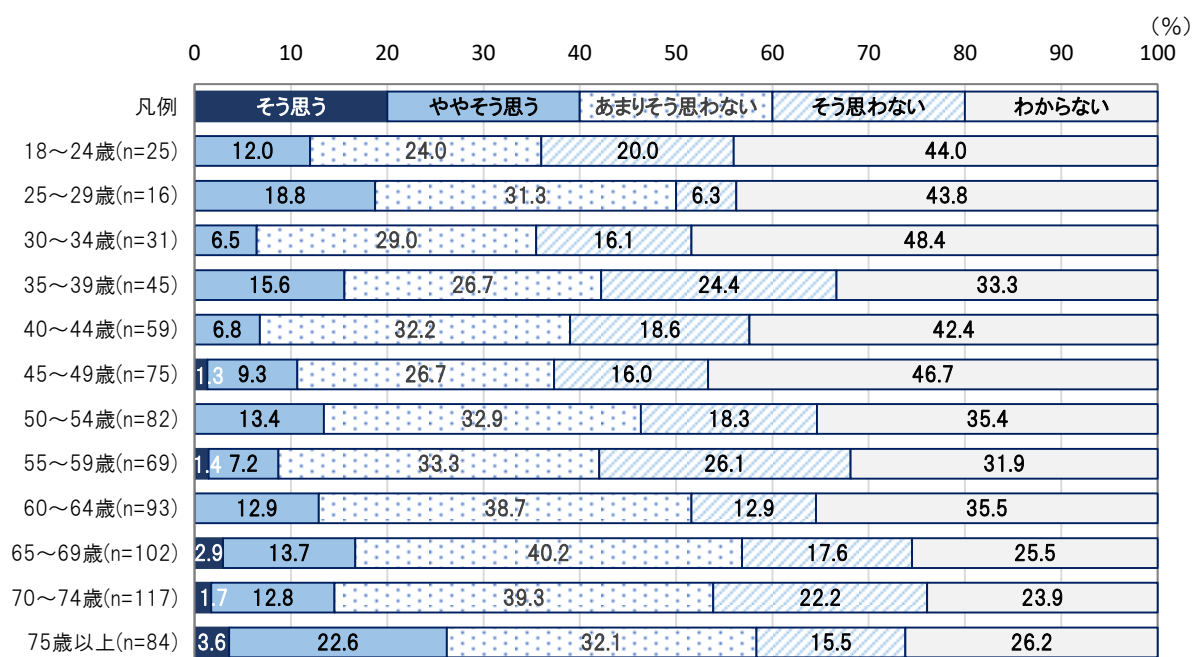
図表 20 【重要度】環境・都市基盤



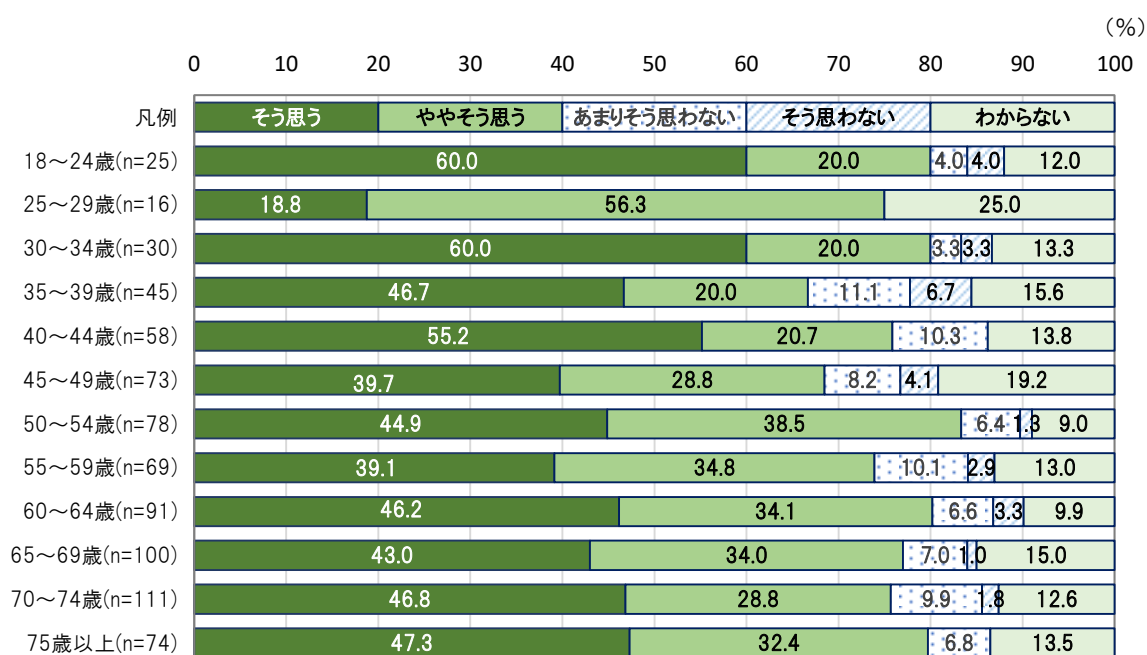
【参考】「温暖化防止の取組が進んでいる」回答の年代別分析

- 「温暖化防止の取組が進んでいる」についての回答は「わからない」の割合が比較的高く、住民の多くにとって理解が進んでいないと考えられる（前頁参照）。
- 回答結果を年代別にみると、「現状評価」の「わからない」の割合は若い年代ほど高く、「重要性」で「そう思う」の割合も若い世代ほど高い傾向がわずかながら見て取れる。ただし若い世代は回答数（n 値）が少ないため結果のぶれが大きいとみられる（「重要度」の25～29歳回答では「そう思う」の割合が大きく下がっているが、これも回答者数が16名に留まっているため偏りが大きく出ている恐れがある）。

図表 21 「現状評価」 「温暖化防止の取組が進んでいる」 (年代別)



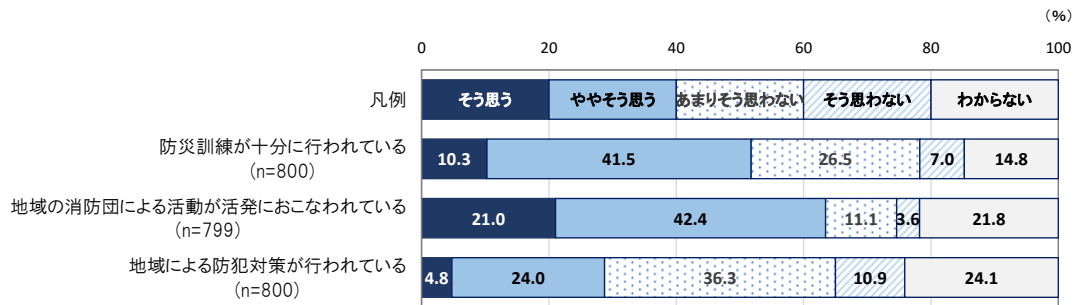
図表 22 【重要度】 「温暖化防止の取組が進んでいる」 (年代別)



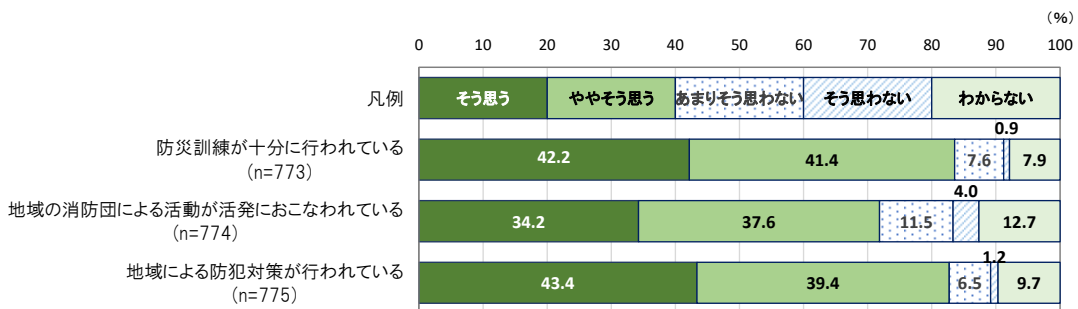
(6) 安心・安全

- ・ 現状評価では、「防災訓練が十分に行われている」「消防団による活動」がいずれも「そう思う」「ややそう思う」の割合が過半数を超えている一方、「地域による防犯対策」は28.8%に留まっております評価が低い。
- ・ 重要性では、「そう思う」の割合が最も高いのは「地域による防犯対策」で43.4%となっている。

図表 23 【現状評価】安心・安全



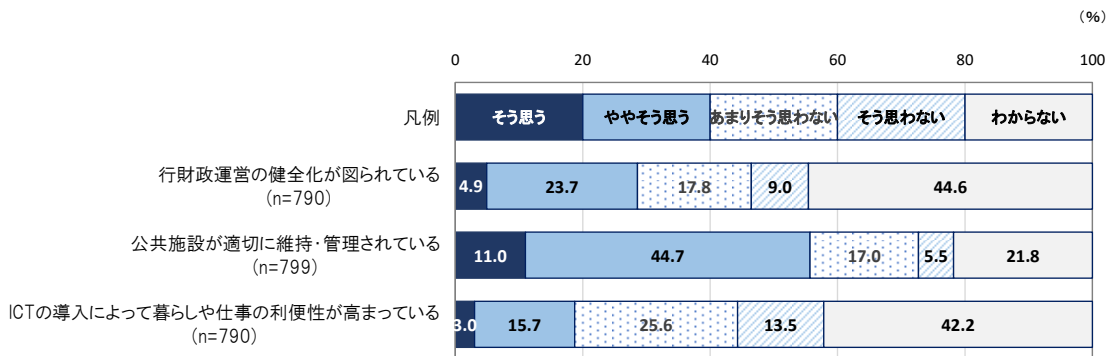
図表 24 【重要度】安心・安全



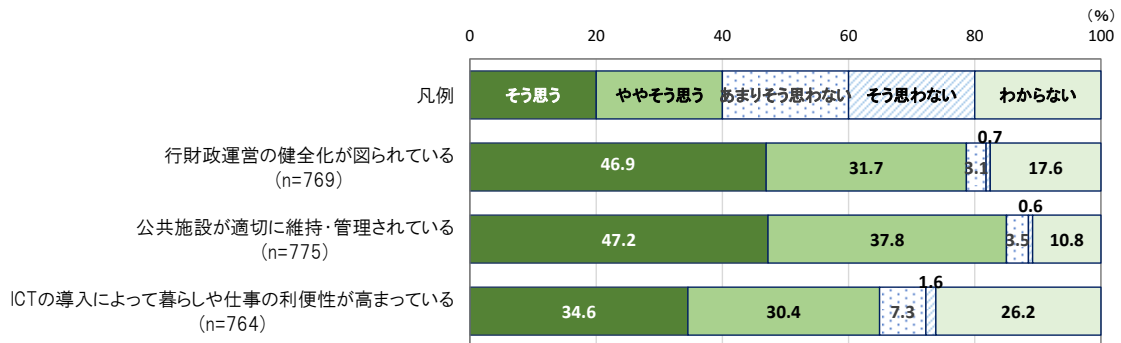
(7) 行財政運営・その他

- ・ 現状評価では、「公共施設の適切な維持管理」が「そう思う」「ややそう思う」の割合が過半数を超えており比較的评价が高い。一方で、「行財政運営の健全化」は28.6%、「ICTの導入」は18.7%と評価が低く、これらの施策では「わからない」の割合が40%を超えている。
- ・ 重要性では、「そう思う」の割合が最も高いのは「公共施設の適切な維持管理」で47.2%、次いで「行財政運営の健全化」で46.9%となっている。

図表 25 【現状評価】行財政運営・その他



図表 26 【重要度】行財政運営・その他

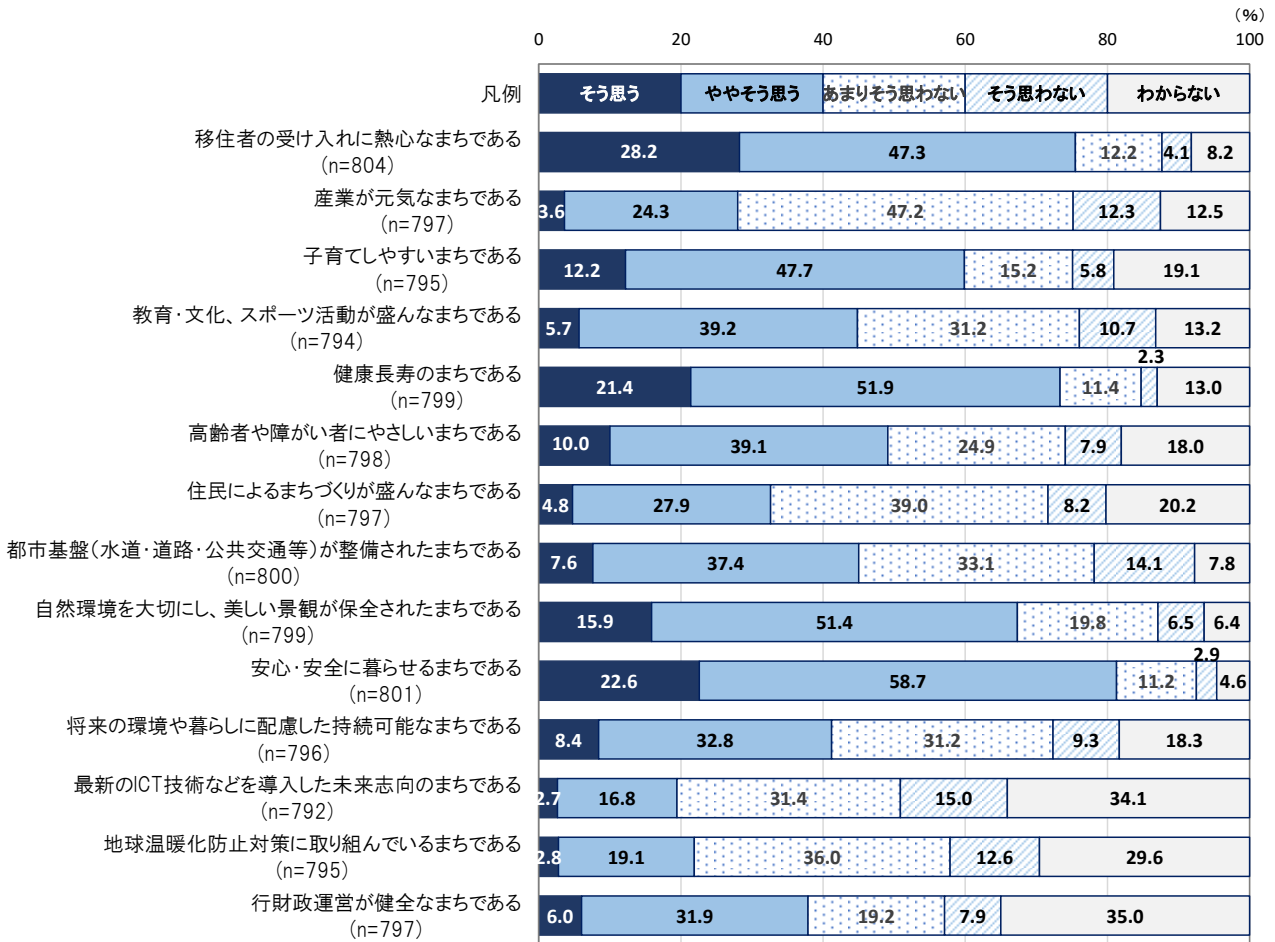


住民調査における富士見町の総合評価と今後力を入れるべき政策

1. 富士見町の総合的な評価

- 「そう思う」「ややそう思う」の割合が高い順に、「安全安心に暮らせる」(81.3%)、「移住者の受け入れに熱心」(75.5%)、「健康長寿のまち」(73.3%)となっている。
- 一方で「そう思わない」「あまりそう思わない」の割合がもっとも高い(評価が低い)のは「産業が元気なまち」で、59.5%と過半数を占めている。また「そう思う」「ややそう思う」の割合が30%を下回っているものとして、「ICT技術の導入」「温暖化防止対策の取組」「産業が元気なまち」がある。

図表 27 富士見町の現状についての総合評価

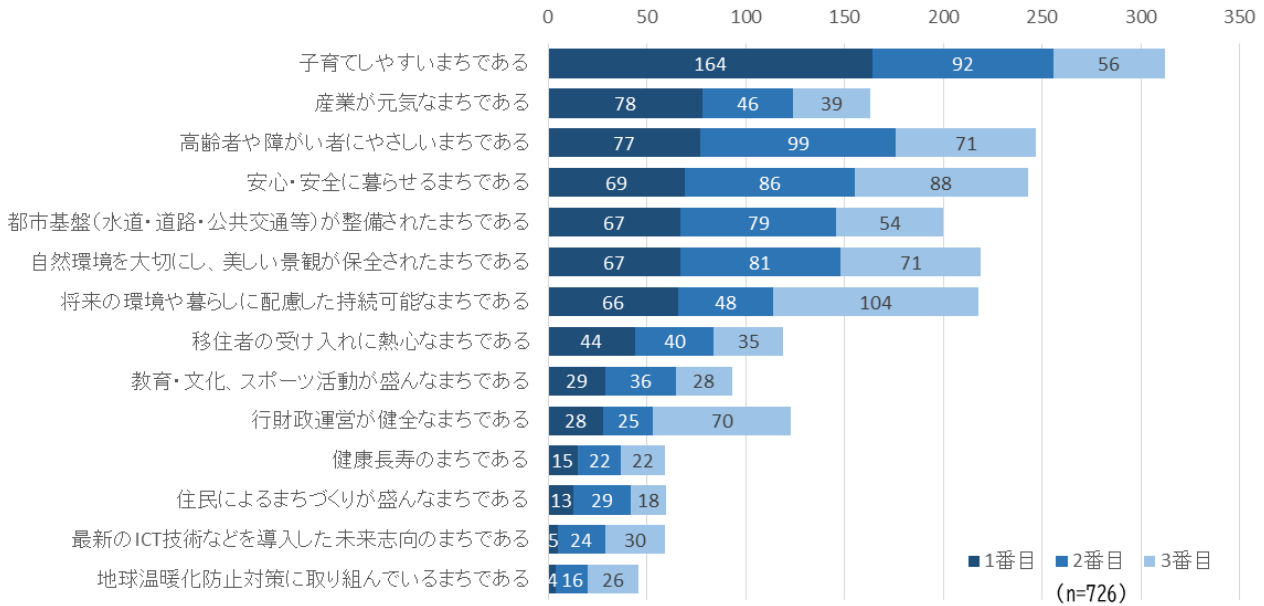


富士見町の現状を政策レベルのカテゴリとして14に分類し、現状評価を聞いた。

2. 富士見町が今後力を入れるべき政策

- 今後町が力を入れるべきこととして「1 番目」に重要という回答が最も多いのは「子育てしやすいまち」で、次いで、「産業が元気なまち」「高齢者や障がい者にやさしいまち」となっている。
- 力を入れるべきという意見が多く、かつ現状評価の比較的低い政策としては、「産業が元気なまち」「都市基盤が整備されたまち」「環境や暮らしに配慮した持続可能なまち」がある。

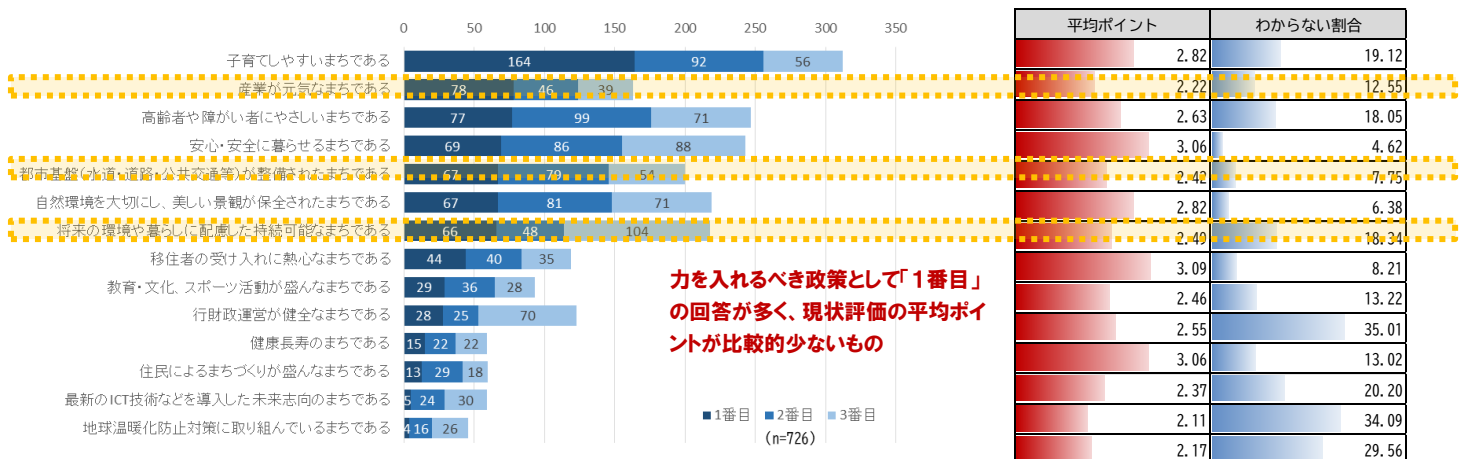
図表 28 今後力を入れていくべきこと



14の政策カテゴリから、力を入れるべきものを1番目から順に最大3つ選択。「1番目」として選択された回答の多い順にグラフ化した。

図表 29 今後、特に力を入れていくべきこと

<今後力を入れていくべきこと(再掲)> <現状の総合評価>



右図<現状の総合評価>では、前頁に示した総合評価を「そう思う」=4、「ややそう思う」=3、「あまりそう思わない」=2、「そう思わない」=1としてポイント化し平均値を算出し、「わからない」を選んだ回答の割合を別途示した。